

neo

⚕ MEDICAL INFORMATION MAGAZINE ⚕

Spring
2024

#03



つながる想いを医療と共に。

02

Doctor's Hand

福井大学医学部附属病院 産科婦人科 教授

吉田 好雄

12

Medical LANDSCAPE

医療法人至捷会 木村病院 理事長

木村 洋平

18

Very Human

福井赤十字病院
看護師長

中山 幸代

看護師

小川 佳代

看護師

松山 沙生

24

Medical LANDSCAPE

福井県済生会病院 院長

笠原 善郎

STAFF

Project Design 坂口 俊克
Writer 白鳥 幸代／若井 恵
Photographer 藤森 祐治
Designer 吉田 真人／西村 恭子
Cover Design 101%

発行／スギメディカル株式会社

〒101-0044

東京都千代田区鍛冶町二丁目 6 番 1 号

堀内ビルディング 2 階

TEL: 03-3254-1335 FAX: 03-3254-1339

E-mail: t.sakaguchi@project-ishin.net

医療を支える。 人と地域の未来のために。

私たちが幸せな人生を歩むために、医療は、必要不可欠です。

しかし、世の中の変化とともに、医療は今、多くの課題を抱えています。

医療人材の採用から育成、キャリア支援、仕組み作りまで

私たち MCS は、HR（ヒューマンリソース）の分野で、医療の課題解決に向き合います。

医療関係者、生活者、地域社会、その未来のために。



「地域」と「医療」の架け橋として ヒューマンリソースの問題をトータルで支援する



吉田好雄

福井大学医学部附属病院産科婦人科

女性腫瘍診断やハイリスク分娩手術。
福井から世界へ。

吉田好雄教授
国際的評価獲得

本年の初め、福井大学医学部附属病院産科婦人科はダブルの喜びに沸く。

一つは、吉田好雄教授らの「ショック状態の深刻な患者における癒着胎盤スペクトラム帝王切開術に対する子宮保持法の評価」が英国の著名なオンライン科学誌BMCに掲載されたことである。

癒着胎盤とは、胎盤が子宮筋層に付着して剥がれない病態。帝王切開など子宮内膜が傷つくような手術をした人に発症しやすく、胎盤が子宮口を塞ぐ前置胎盤を合併する例が多い。出血多量、血液凝固異常を起こし、妊産婦死亡の一因となっている。対処は子宮全摘出だが、膀胱、尿路、腸管など周辺臓器を損傷するリスクが大きく、難度の高い手術となる。

教授らが確立した新規の術式を概説する。術前には、子宮内の止血制

御の対策を準備、尿管識別を行い膀胱と子宮の外側腔を開放して、周辺臓器の保護策を講じる。子宮全摘出では「Holding-up uterus technique（子宮持ち上げ術）」を行う。具体的には、ダグラス窩腹膜を切開開放して形成された直腸膈間隙に片手を奥深く挿入し、もう片方を膀胱子宮窩に差し込み、子宮を挙上する方法である。この方法で子宮動脈などの血管は上方に挙上され、同時に頸部、尿管を確認しながら子宮を摘出することができる。以上が前置癒着胎盤に対する「安全な」子宮全摘術である。

同年2月には、福井県が「県版ミニ・ノーベル賞」と称する県科学学術大賞を受賞。新規の子宮肉腫診断法を開発した教授の功績が認められた。血液と画像を用いる低侵襲な世界初の診断法であり、同時に、子宮肉腫の肺転移のメカニズムも究明している。

子宮肉腫は発症頻度は低い、肺転移しやすく、予後の悪い悪性腫瘍だが、良性である子宮筋腫との識別

が非常に難しい。MRIを始め、さまざまな検査法を用いても、筋腫でありながら肉腫と診断されるケースもある。

教授らは、子宮肉腫の場合、血液中のある4種の分泌タンパク質濃度が子宮筋腫よりも高いことを発見。MRI画像とこの血中の腫瘍マーカーの定量検査を組み合わせることで、子宮肉腫と子宮筋腫を見分ける検査精度を高めた。すでに特許も取得、さらに精度を高めるための研究を続けていく。

「医局の先生たちによく言うのは、医者は命を救えなくては医者じゃない、ということ。人はみな仕事に就いていて、それぞれの役割を果たしている。医者の務めは命を助けること。それができないなら医者として意味がない。そういう心積もりで臨床にも研究にも臨んでください」と。

産科婦人科分野の先進的な医療を福井に

福井大学の産科婦人科は腫瘍、周

産期医療、不妊・不育医療の3部門で構成され、産科婦人科疾患をほぼ網羅する。周産期医療に関しては、小児科と連携して総合周産期母子医療センターを運営、関連病院やクリニックなど県内施設から高度管理を要する妊婦を引き受けている。不妊・不育部門に関しては2022年、高度生殖医療センターを設置。これまで不妊治療を受けるために県外へ出ていた人に対し、福井大学で専門的な不妊治療を受けられるようになった。

吉田教授が専門とする腫瘍部門では、子宮頸がん、子宮体がん、卵巣がん、子宮肉腫、子宮筋腫を主な診療対象とし、先端的な診療を行っている。

たとえば、子宮体がんが疑われる場合、一般には細胞診や組織診を行うが、腫瘍の一部しか調べられず、転移や再発を予測することは難しい。それゆえ早期と診断されても、転移のリスクを回避するために子宮摘出と骨盤内のリンパ節を郭清することが多い。しかし、実際に転移す



るのは数%程度。同科では子宮体がんに対し、早期の場合ならばホルモン療法を行う。FES-PEET検査を用いて、ホルモン療法の効果を調べたり、子宮全摘出か温存可能かを診断したりする。こうした診療を受けた女性のうち、これまでに2名が出産をかなえている。

FES-PEET検査は、エストロゲン受容体に集まる女性ホルモン、フルオロエストラジオールに放射性フッ素を付したPET薬剤（18F-FES）を用いる画像検査。検査対象の部位にどれくらいエストロゲン受容体があるかを調べることで子宮肉腫の診断や子宮体がんの性状などを診断できる。吉田教授ら福井大学の研究グループが開発した検査法だ。

子宮頸がんに関しては、病変のサイズにも依るが、患者が出産の可能性を望む場合は妊孕性温存手術を優先する。治療後、これまでに4名が出産に成功した。病変が2cmを超える症例の場合は、放射線療法の一つ、RALSを適用する。線源を腔内に設置し、腫瘍部位に集中的に放射線を照射する療法である。

また、進行した卵巣がんに対しては、消化器外科との連携で温熱化学療法を取り入れている。温熱化学療法

法は、温熱感受性のある抗がん剤を入れた生理食塩水を加温し、がん細胞の死滅を狙う方法だ。

吉田教授は福井県産婦人科医師連合の会長も務めており、会の業務の一つにHPVワクチン接種の推進がある。

「HPVワクチン接種にはキャッシュアップ制度という公費支援があって、接種の対象者で受け損なった人は、2025年3月まで無料でワクチンを受けられます。一時期、副作用の報告があったせいで、国もワクチン接種をあまり勧めなかった。もともと、日本では子宮頸がん検診の受診率は低く、福井では受診率は4〜5割ほど。HPVワクチン接種にいたっては2割しか受けていない。欧米では検診もワクチンも7〜8割の人が受けていて、子宮頸がんは減っているのに、日本では逆に増えています。進行がんの場合は子宮を取るようになってしまう。HPVワクチンの接種をなんとか広めないと」

かけがえのないできごと

「医局の先生たちによく言うことがもう一つあります。指導医が『こういうことがあるんだ』と教えるこ



「こういう症例がありました」、仕事を終えると紙谷先生に電話をかける。それが日課。「いつ行っても、あの先生おるわ」と、住民らの口にするようになり、患者は少しずつ増えていく。

ある深夜、助産師が妊婦さんを連れて病院に駆け込んできた。逆子が生まれそうだという。現在は、逆子（骨盤位分娩）は通常、帝王切開分娩となるが、当時は自然分娩だった。「骨盤部から出てくるので、産道に赤ちゃんが引っかかってしまうと母子ともに危ない。その頃、私は31歳で駆け出し。不安で怖くてたまら

ない。それでも自分がやるしかない。「これから骨盤位分娩を行います」と、紙谷先生へ電話をしました。そうこうして、無事、赤ちゃんが産まれた。「やった！よかった！」と跳び上がった、一刻も早く先生に早く知らせようと、外線のある宿直室へ走った。なんと、そこに紙谷先生がおられる。あの時の事を思い出すと、だめや。いまでも、涙が出ます」

福井市から高島総合病院（現・高島市民病院）まで約130km、何かあったらすぐに対応できるように深夜の道を駆けつける師。けれど、一人前になるためだまって近くに待機

してくれた師。吉田教授は、こう語る。「紙谷先生には遠く及ばないけれど、医局の子らを見捨てない、は私の信条。調子に乗っているとき、失敗ばかりやらかしているとき、怠けているとき：叱りはしますよ。けれども、指導をする者は絶対見放してはいけない、と思う」

「医師は、生命を救って、なんぼ」と語る厳しい、優しい師。世界的臨床研究に挑む姿、日々、患者に寄り添う姿が、福井大学産科婦人科を強くする。

『ガイドラインには載っていません』と言う若手がいる。ガイドラインは絶対ではない。いや、おおむね正しいけど（笑）。でも、ガイドラインには載っていない正論はあります。原点に帰ることが大事だと私は伝えたい。それが本当なのかどうかは、自分で確証をつかまなくてはいい

「あと、『ハイボリュームセンター』に勤めて、たくさん症例を診ないと優れた医師になれない」といった発言を聞くことがあります。一概にそういうわけではないと思いますが、す。というのも、私は都会にあるよ

うな大病院に勤めたことはないけれど、いま、こうしている（笑）。症例の少ない病院でも、患者さん一人ひとりを丁寧に診れば、教わることは山ほどあります。初代教授もおっしゃられていました。患者さんこそが医師の教科書だと」

初代教授は、富永敏朗先生である。福井大学医学部の産科婦人科教室の基盤を築いた人だ。努力、団結、報告、指導、信頼、独創、6つのキーワードによる訓示を後続に授けている。研修医にとって「神様のようなかた」と言う。

二代目小辻文和教授は、前置胎

盤・癒着胎盤に対する標準帝王切開術の確立という業績を成し、福井大学産科婦人科の名を世に知らしめた。三代目吉田好雄教授は、二代教授から手術の技術、論文、国際交流など、医師のイロハをすべて教わった「数ある先生のなかの先生」。

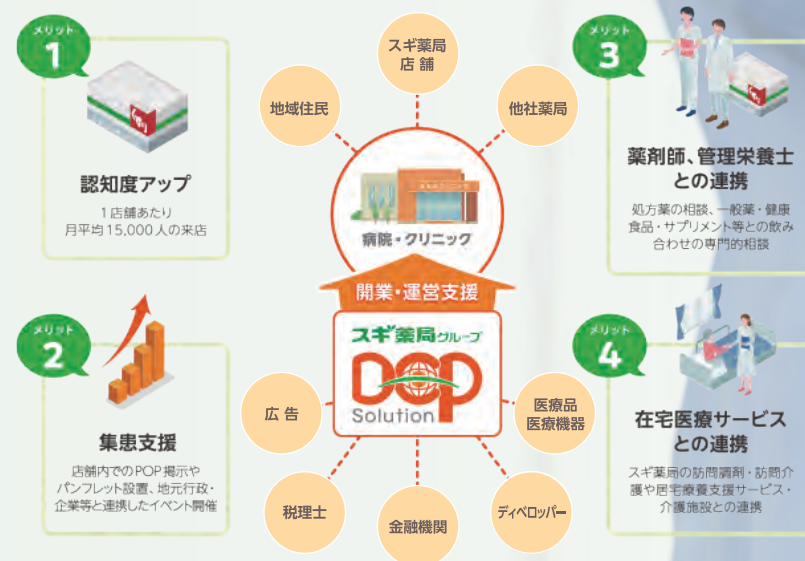
そして、研修医時代の吉田氏に「医師としての根幹」を示してくれたのが、当時、医局長だった紙谷尚之先生である。研修医を終えた吉田氏が、初めて赴任したのは滋賀県高島の公立病院。産婦人科の医師は吉田氏ひとり。休みは月に1日だけ、来る日も来る日も働いた。「今日は



ドラッグストア併設で 理想の開業を！

DCPソリューションの提供サービス

経営理念、診療方針の作成
開業までのスケジュール作成
開業地の選定、診療圏分析
事業計画の策定
融資の打診及び交渉
設計、内装業者紹介及びアドバイス
医療機器選定
税理士、公認会計士の紹介
広告相談
従業員募集、採用、教育の補助
開設手続き
開業後の経営支援、拡大展開
継承支援



DCPソリューションは
豊富な経験とネットワークを持つ
先生方のよきパートナーとして
開業支援サービスを提供しています。



 **0120-911-545**

平日(土曜・日曜・祝日を除く)の9時00分～18時00分

拠点

関東エリア(本社) ●東京都千代田区鍛冶町二丁目6番1号
堀内ビルディング2階
中部エリア ●愛知県大府市横根町新江62番地1号
関西エリア ●大阪府大阪市淀川区宮原4丁目4-48
北陸・長野エリア ●石川県金沢市藤江北4丁目280番地

開業の事例や
先生方の声が
ご覧頂けます



<https://dcp-sol.com/article/docvoice/>

地域医療を豊かに。 患者ファーストの中核病院

医療法人至捷会 木村病院
理事長

木村 洋平

福井県嶺北地方の
医療ニーズに対応

医療法人至捷会木村病院は、初代理事長により1980年9月、旧金津町に開業された。急逝した初代の跡を、木村洋平理事長が35才という若さで継承。2012年、北金津の現在地に新築移転し、今日に至っている。外科（消化器外科、肛門外科）、内科（呼吸器内科、循環器内科、消化器内科、糖尿病・代謝内科、内分泌内科、腎臓内科・人工透析、脳神経内科）、整形外科（整形外科、リウマチ科、リハビリテーション科、形成外科）、脳神経外科、眼科、放射線科、皮膚科、泌尿器科、耳鼻咽喉科、アレルギー科を設置、病床数は133。その診療科構成は、住民が地域内で必要な診療を受けられるように、という先代の意図に基づく。

病院の近在には、関連施設として「ナイスケア木村」がある。介護老人保健施設、通所リハビリテーション、短期入所療養介護という3つのサービスを地域に提供



YOHHEI

KIMURA

している。

また、木村病院と福井医科大学（現 福井大学医学部）の開設年度は同じであり、理事長が福井大学医学部出身ということも相まって、大学病院との連携は密である。医局員の方が非常勤として外来診療に來たり、常勤としてローテーションで來たり、という関係だ。また、福井県内の基幹病院とも良好なつながりを築いている。

糖尿病と消化器がんの診療に注力

病院の強みについては、理事長はこのように話す。

「一つは、糖尿病を総合的に診療する体制を整えていることです。糖尿病専門医が常勤で2名在籍していますし、糖尿病の合併症である網膜症と腎症にできるように、眼科専門医が常勤しています。また、透析センターでは、個室2台を含む22台のコンソールを設置し、安全性の高い透析治療に努めています」

糖尿病の合併症予防にも力を入れており、血糖値を24時間モニタリングする機器などを適宜利用し、

糖尿病専門医や管理栄養士らが、患者のライフスタイルに合わせた治療を提案している。

「もう一つの強みは消化器がんの診療です。私は大学で消化器がんを専門として臨床と研究をやっていたので、終末期までを診る体制ができています。ただ、私が気になっているのは、大腸がんは増加の一途をたどっているのに、大腸カメラを受ける方が増えないということ。大腸がんの多くの症例を経験したことから、便潜血検査はたいへん重要であると考えています。しかし、その後の精密検査を受けない方が多い。大腸カメラは前処置時間がかかりますし、検査中も侵襲が高く、しかも羞恥心という抵抗もある。そうした課題はありますが、何とか大腸カメラ検査を普及させたいと思っています」

がん診療に対する統合医療

木村理事長は、がん治療に対してこう考えている。「これは難しいな」と思うほど進行した患者でも、標準治療の3大治療を行うことにより、がんが劇的に縮小した

症例経験があるため、まずガイドラインに沿った治療を行う。がん種の性質と進行度に対する予後を分析し、同時に、進行の早いタイプか、遅いタイプかを検討、ベストな治療法を選択する。ただ、ガイドラインに則るだけでなく、「仕事を続けながら治療したい」、「生活の質をできるだけ保ちたい」といった患者自身の意志も尊重する。

一方、「がん難民」と呼ばれる患者が少なからずいる。標準治療が効かず、医師から治療の終了を告げられたり、医師の治療に納得が行かず、希望をかなえてくれる医師を探し回っていたりする患者のことだ。理事長は、そうしたがん患者を何とかしたいと考えていた矢先、統合医療の概念に出会う。統合医療は、患者中心の医療、全人的医療、一生を見守る包括医療などと定義され、米国ではその研究が非常に進んでいる。

「大学病院の医局に勤務しているころは、統合医療に対して興味がありませんでした。しかし、統合医療を知り、勉強していくうち、科学的に成果を証明されている治療が多くあるとわかり、当院でも導入していこうと考えたのです」

多様な免疫療法を取り入れる

がん医療では近年、生体の免疫機能を活性化させる免疫賦活剤を統合医療として導入しようとする研究が盛んに行われている。理事長もまた、免疫細胞の活性化に注目、がんに対する統合医療をスタートさせた。具体的には、超高濃度ビタミンCの点滴、栄養療法、水素吸入などである。

最も力を入れているのは、超高濃度ビタミンC点滴だ。ビタミンCは鉄イオン存在下で一定濃度を超えると、ある還元反応が起き、過酸化水素が発生する。正常細胞は、カタラーゼという酵素が過酸化水素を中和するため、影響を受けない。しかし、がん細胞の多くはカタラーゼが欠乏しているため、過酸化水素によってダメージを受ける。一方、ビタミンCは免疫系を刺激し、がん抑制遺伝子の保護に働き、抗がん作用と免疫強化という二重効果が期待できる。こうした高濃度ビタミンC点滴療法が適応となるのは、標準治療の効果を確実にしたい、標準治療の副作用を軽減したいという患者である。栄養療法は、オーソモレキュラー



療法や分子整合栄養学とよばれ、適切な食事、サプリメント・点滴などを用いて細胞の機能を高める療法。

また、水素吸入は、抗酸化、抗炎症、免疫力アップなど優れた作用を有する水素を、疾患の予防や治療に活用するというアプローチ。化学療法による副作用の軽減効果などの報告もある。

「こうしたがんの補完治療については、患者さんに治療の原理などを一から説明し、十分に理解していただくように心がけています。特に、高濃度ビタミンC点滴療法は、希望する患者さんも増えてきており、治療効果も実感しています」

統合医療と美容医療のセンターを新設

以上の治療を積極的に行うため、2023年10月、病院敷地内にセンター「B i a n d o（ビアンド）」を設置した。

「標準治療は言うまでもなく重要ですが、患者さん一人ひとりに適したがん治療を考えていくことも、がん治療に取り組む医師の役目だと思っています。患者さんの生活

に寄り添う医療を行えるよう、一般の方にとって統合医療が身近なものになるよう、窓口を広くしていきたい」

B i a n d oでは、美容医療も開設している。外見上の美容だけではなく、臓器や組織、ホルモン分泌などのインナーケアを行い、酸化ストレス、糖化ストレス、腸内フローラ検査など特徴的な検査を行っている。たとえば、アレルギー症状が出ているのに、アレルギー検査を受けても陰性になる遅延型フードアレルギーという疾患がある。フードアレルギーの多くは、I g E抗体という免疫反応が関与するアレルギーであり、原因食物を摂取してから症状が出るまでの時間が短い即時型だ。一方、遅延型は即時型とは異なる機序に依るといわれており、症状が出るまでにかかなりの時間を要する。そのため、原因を特定できないまま、原因食物の摂取を続け、慢性的な症状（皮膚疾患、片頭痛、慢性蕁麻疹、消化不良、手湿疹、不眠、イライラなど）を発症する。B i a n d oでは、そうした遅延型フードアレルギーも採血検査で調べることができる。

頼して率直な思いを語ってくれる方は多く、患者さんの死生観を受け止め、あるいは医師の学ぶべきこととして自分の中に積み重ねてきました。それらを新たな患者さんと接する上で活かせるようになったと感じています」

また、がんの補完治療やがんの予防という視点から学んだ、栄養と疾患の関連、慢性炎症や酸化ストレス軽減の知識、アンチエイジングを、自らの生活にも活用。適切な食事や運動、定期的な高濃度ビタミンC点滴や腸内フローラを重視したサプリメントの摂取も心がけていると言う。

「ストレス解消は、趣味のゴルフです。適度な運動をするために、ラウンド中はカートを使用せず歩くようにしています。ランニングも好きですね。でも、休日の過ごし方はもっぱら4人の子どもたちの世話（笑）」

固定観念にとらわれることなく、「患者を主体とする」医療を追求するという姿勢を以て、多様な医療に目を向ける木村理事長。地域医療におけるこれからの在り方がここにある。

「B i a n d oには、たとえば、

腹痛があるのに消化器内科で内視鏡検査をしても血液検査をしても病因がわからない、登校もままならないという児童が来院したことがあります。そこで、栄養障害、腸内環境、遅延型フードアレルギーなどの検査を行い、原因を突き止めました。また、点滴・内服などのキレート剤を用いて、有害重金属を排泄するキレーションという診療も行っています。ヒトは食事、呼吸、接触を通して気付かないうちに金属を体内に取り込んでいます。体内に蓄積することで不調や疾患を引き起こす金属を有害重金属と言います。水銀、鉛、カドミウム、ヒ素などがこれに当たります」

これまでの診療経験と新たな医療情報を駆使しながら

木村理事長はこれまで尽力してきたがん診療について思いの丈をこう語る。

「手術でがんを切除して、その後再発して化学療法をして、それが功を奏せず、ターミナルケアに移行してお看取をする。そういう経験をいくつもしました。私を信





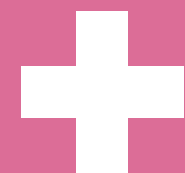
Saki
Matsuyama



Kayo
Ogawa



Sachiyo
Nakayama



Very Human

福井赤十字病院

患者さんの声なき声を聞き逃さない。

脳卒中に特化した看護

北陸最大のSCUを持つ病院

「SCU」とは、脳卒中集中治療室のこと。Stroke Care Unitの略。よく聞くICU (Intensive Care Unit) の対象となる患者の中でも、脳出血、脳梗塞、くも膜下出血など、脳血管障害の急性期患者に特化した集中治療室である。

福井赤十字病院では、神経内科と脳神経外科で構成される「脳神経センター」に、このSCUが設置されている。超急性期にいち早く治療するかが鍵となる脳卒中の患者に対して、医師と看護師が24時間対応し、緊急治療と看護ケアを切れ目なく行っている。脳卒中に特化した、このような治療や看護を受けることができ、12床あるSCUは北陸では最大規模だという。そのうち2床は陰圧の個室となっていて、感染症の患者にも対応できる。

患者はドクターヘリで遠方から運ばれてくることもあり、病床の稼働率は常に100%を超えている。看護師は患者6人に対して

2人がペアで対応する体制が取られ、昼夜問わず4人以上の看護師が配置されている。ベテランと若手がペアとなって、ベテランが若手の指導にあたっている。SCUでは脳に特化した知識を持って看護にあたっているが、高齢な患者など、複雑な状態が絡んでくると、ICUと同様の全身管理の知識も必要となってくる。SCUには集中ケア認定看護師が1名いて、そのような状況でのスタッフへの教育も万全だ。

超急性期から患者の日常まで
気を配る

急性期を脱した患者は、なるべく早く離床してリハビリを始める。その経過の中で、看護師は急性期治療だけでなく、患者の退院後の生活を考えて、適切に介入しながら常に患者に寄り添っている。

「脳卒中では今までの生活が難しくなる患者さんもいらっしゃる。その方が今後どう生活して



看護師長
中山 幸代
勤続年数23年

いくつか、リハビリをどうするかといったことを、入院1〜2日後の早期に、医師、看護師、薬剤師、理学療法士、社会福祉士が集まり、カンファレンスを行います」と言うのは、看護師長の中山幸代さん。「昨年4月になったばかりのまだ新米看護師長なんです」と謙遜するが、一刻を争うため、緊張することが多い職場で、スタッフにたくさん話しかけることを意識し、持ち前のやさしさとユーモアで、しっかりとスタッフをまとめ上げている。

そんな中山さんも看護師になった1年目は、今でも母親が「あなたは仕事から帰ってきて家の玄関を開けるとその瞬間からすぐ毎日泣いていた」と言うほど、つらい日々を過ごしていたという。それでも「とにかく3年間はがんばろう」と心に決めて、いろいろなものを吸収した。3年経つと別の病棟へ異動となり、その後も異動を繰り返していく中で、自分はその分野を極めるスペシャリストより、広く知識を有するジェネラ

リスト的な立場が向いていると思うようになったそうだ。異動した先々の病棟では、担当する患者さんの疾患や特性だったり、時には「心肺蘇生をもっとうまくやれたら違ったのではないか」と自分を責めたりといったさまざまな苦悩も含めて、多くを学び、それを看護につなげてきた。今まで、つくても辞めたいと思ったことは、一度もないと言う。

後輩が安心して成長できるよう、学び教える

他の疾患で入院中であっても、脳梗塞など、病院内で脳卒中が発症することもしばしばある。

「その部署の看護師が早期に発見し、すぐにこちらに連絡してることが重要です。そのために私たちはチームを組んで、各病棟をラウンドし、脳卒中を疑う症状などを伝える勉強会を開き、院内発症をできるだけ早く治療につなげていく啓発活動を行っています」と、院内発症した時の連携につい

て、小川佳代認定看護師が説明してくれた。

小川さんが看護師を目指すようになったのは中学生の時。学校行事の一環で、当時この病院で看護師をしていた母親の働く姿を見て、看護師に憧れるようになったのだとか。「小さい頃は授業参観に来てくれないとか、寂しい思いをさせられて、毛嫌いしていた職業だったんですけどね」と笑う。母親と同じ病院に就職した1年目、急変で患者さんが亡くなったことを経験。その時は看護師を辞めようと思ったが、そこで支えてくれたのが母親だった。

「看護師を継続するにしても今のままではダメだ、もっと勉強しなければ」と思い、ICUへの異動願いを出しました。そこで働き、学んでいるうちに、自分のように思うように看護できなかった経験から、つらい思いをする看護師が1人でも少なくなればいいと思って、日本看護協会看護研修学校で学び、集中ケア認定看護師を取得しました。認定看護師はケアの実

践だけでなく、スタッフの教育にも大きな役割を果たします。そして自分の知識や技術を活かした教育ができる場所としてSCUを選び、育児休業明けのタイミングでICUからSCUへ異動してきました」

声なき声を言葉にする、観察力が重要

SCUで勤務する看護師に求められるものとは何か。子どもの頃に観ていた『ナースのお仕事』というドラマで看護師に憧れ、この道に進んだという松山沙生看護師が、次のように紹介してくれた。

「血栓回収療法や血栓溶解療法といった時間勝負の治療に看護師も関わります。その時はチームワークが大事で、医師の指示を待つだけではなく、私たち看護師が自分で気がついて行動しないといけない場面もあります。そのために、必要な知識と技術を身につけておく必要があります」

松山さんは小学生の時に祖父を



看護師
小川 佳代
勤続年数20年



んな看護師になりたいのか、キャリアデザインを描けるように、やりたいことをうまく引き出してくれるサポート体制も整っています。看護師を長く続けていくには学び続けることも大切で、その点での体制が整っていることは、とても良いと思います」(中山さん)

「認定看護師の資格を取得する際には、1年間の研修を業務として受講することができたため、離職する必要はありませんでした。また、受講費用についても助成があり、いろいろと応援してもらいました」(小川さん)

「1年目は先輩が指導者としてつきますが、初めての夜勤の時も一緒に付き添って教えてくれて、すぐく守られているなと感じました」(松山さん)

最後にこれから看護師を目指す人と思っている人に一言ずつコメントをいただいた。

「患者さんに対して、良くなって欲しいと思いながらサポートすることがすごく大事です。やさしくて、思いやりがあって、ちょっ

とガッツがあるという人がいいのかなと思います」(松山さん)

「看護師って、『奉仕』という言葉に尽きる職業で、人に何かをしてあげたいから始めて、もっと良いことをしたいと考え、研鑽を積み重ねます。でもそれを苦に思わないのが看護師なんです。その学びが患者さんへの看護につながる。人は好きって人が目指してくれるといいのかなと思います」(小川さん)

「忙しい毎日の中で患者さんのちょっとした変化を感じられる人になって欲しいと思います。昨日よりほんの少し指が動くようになったとか、患者さんの小さな前向きの変化を『すごい』と思って、患者さんと一緒に喜べるような人になって欲しいなと思っています。そのことが楽しいと感じられれば、やりがいや仕事を続けていけるモチベーションになると思っています」(中山さん)

日々、緊張と慌ただしさの中で、仕事のやりがいを見つめてい



看護師
松山 沙生
勤続年数10年

がんで亡くし、その時の経験によって、ドラマの影響で漠然といいなという思いから、現実的に看護師になりたいという夢へと変わったそう。しかし、頑張って看護師になれたものの、新人の頃に受け持っていた患者さんが急変したとき、先輩の指示がないと全く動けなかったそう。そんな自分が悔しくて、そこから、しっかりとした看護師になりたいという思いを強く抱くようになり、積極的に勉強をするようになったという。

「辛い時にサポートさせていただいた患者さんからいろいろなお話を聞けたり、感謝の言葉をもたらしたりした時は、この仕事をしていてよかったなと思います。みんなで切磋琢磨して業務に励み、その中で患者さんの治療がうまくいって、状態も良くなって退院していく姿を見ると、力になってよかったなと思います。それがこの仕事を続けていける原動力になっています」

SCUでの勤務で心がけていることを聞くと、3人が口を揃えて

言うのが、「患者さんのちょっとした変化を見逃さないこと」だ。観察力を研ぎ澄ますことが肝心となる。

「お話ができない、言葉で苦痛を訴えることができない患者さんがいることから、バイタルサインなど数値化されるものや、ちょっとした汗、表情を自分たちがどれだけすくいとれるか。SCUで勤務する看護師には、患者さんが何を訴えたいのかということをアセスメントする能力も求められます」(小川さん)

大変だがやりがいも大きい 看護師の仕事

福井赤十字病院に勤務する魅力として、3人ともが教育の手厚さを挙げる。

「3年目までは新人教育というサポートがあり、中堅クラスになれば自分で選択して研修を受けることができるなど、教育体制が整っています。あとは要素所で部署の看護師長と面談をして、ど

る3人。大変だからこそ、得られるものもあって、それが仕事を続けていける原動力にもなっている。3人の言葉から、患者にとっても医師にとっても頼りがいのある存在となるために、看護師は弛まぬ努力を積み重ねているというのを、改めて知ることができた。



令和7年度看護職員募集要項

1. 応募資格

令和7年3月に看護師・助産師養成機関を卒業見込みの方、もしくは有資格者

2. 提出書類

- 1 直筆の履歴書(本院指定の書式。HPからダウンロード可能)
- 2 健康状況申告書(本院指定の書式。HPからダウンロード可能)
- 3 成績証明書
- 4 卒業見込証明書または卒業証明書
- 5 看護師・助産師・保健師免許の写し(有資格者のみ)

3. 願書締め切りおよび試験日(令和6年4月~6月予定)

詳しくは、HPをご覧くださいか、人事課までお問い合わせ下さい。

【E-mail】jinji@fukui-med.jrc.or.jp

4. 試験内容

書類選考、適性試験、小論文、面接試験により選考を行います。



「患者の立場」 理念は不変、
「社会に即応」 医療は変革。

FUKUI-KEN SAISEIKAI





2020年2月、日本にコロナ
が流行し始め、福井県済生会病院
でも混沌とした日々を余儀なくさ



れた。昼休み、職員は黙って食事をするだけ。新たな入職者は歓迎会や慰安旅行、忘年会、新年会もなく、同期なのに他の部署の入職者を知らない。職員同士のコミュニケーションが損なわれてしまった。また、患者家族は病院に立ち入れず、患者家族と医療者との関係も希薄になった。

「私は、2000年頃からチーム医療に力を入れてきました。チーム医療、チームワークは当院が最も大切にしているValueの一つ。ところがコロナ禍に見舞われ、チームワークの根源であるコミュニケーションが分断されてしまった。現在はまず当院の良いところを取り戻しましょうということで、リスペクトと笑顔をキーワードに、より良い関係の再構築を図っています」

一方、コロナ禍によって得られたものもある。業務の無駄が見えてきたのである。たとえば、東京への出張はZOOMによって、また、学会の多くはWEBによって、現地へ移動をする必要がなくなった。

「これまでの生活の1割ほどは



無駄だったように思います。ITを使いこなせば、もっと効率化できることがあるはず」、笠原院長の気付きである。

また、全国の医療施設では目下、「働き方改革」という課題に対し、タスクシェア・タスクシフトなどの策を講じている。しかし、福井県済生会病院では、20年以上前からチーム医療の最適化を進めるため、タスクの分担体制を整えてきた。いまさらタスクシェア・タスクシフトによって個々の仕事量はわずかしかなかった。

「患者さんの高齢化が進めば、一人ひとりに要するケアの量は増えます。ところが今後、人口の減少により働き手は減ってしまう。では、どうすればよいのかと言いますと、病院全体の業務量を見直すことです。やり方を変える、業務量を減らす、不要な業務をやめる『変える・減らす・やめる』。ITを駆使して業務のコンパクト化を図ることも必要でしょう。ただし、『患者さんの立場で考える』という理念がぶれてはいけません。患者さんへの医療の質を落とすような働き方改革であってはならな



いのです」

乳がん検診推進の原動力は患者さんとその家族の涙

笠原院長は乳腺外科のスペシャリストである。昨年の11月、最新版「国民のための名医ランキング」の乳がん分野に選ばれていましたね、と水を向けると、「どこのランキング？いろいろなところで選ばれていますから」(笑)。

乳がん検診にも長年、力を注いできた。厚生労働省の「乳がん検診の適切な情報提供に関する研究」では研究者代表を務め、高濃度乳房の対応を含め乳がん検診に関わる数々の研究事業に参画。日本乳癌検診学会理事、日本乳がん検診精度管理中央機構副理事長などの要職に就いている。

「かつて、乳がんはそれほど多いがんではありませんでしたが、近年増加し、今では女性が罹るがんの第1位です。乳がんの特徴の一つは40代に多いということ。40代女性といえば、家事を取り切り、子どもは小学生か中学生か、もっと小さいかもしれない。家族



笠原 善郎 (かさらは よしお)
福井県済生会病院 院長



職員の働きぶりを評価する。「普段何気なく使う『ありがとう』も嬉しいのですが、退院時に患者さんが言う『ありがとう』はある意味別格です」と語り、そうしたやりがいを、職員にもっと感じてもらいたいと思っている。

「職員はみなさん、がんばってくれています。以前は、患者さんに退院時、アンケートを取ると、3対1の割合でご意見のほうが多かった。でも、最近は逆転し、感謝の言葉を多くいただけるようになりました。安心をもらいました、笑顔をもらいました、この2つが多いですね。患者さんからの感謝の声は、その受け取り主である職員へ、笠原院長の手書きのメッセージと共に笠原院長が直接職員に贈っている。

「患者さんの立場で考える」という変わらぬ理念、「社会の変化」に先駆けて変えていく医療。笠原院長が舵を取る福井県済生会病院は、目指すべき方向へ順風満帆、進んでいる。

のかなめのような存在です。社会の働き手としても活躍している年代。そのような方ががんで亡くなるのは、社会にとっても損失です」

笠原院長は、これまで多くの乳がん患者さんの診療にあたり、さまざまな思い出を抱えている。中でも、ある「お母さん」の記憶は少し悲しく、鮮明だ。

「1年前から胸にしこりがあります。痛くはなかったので放っておいたら大きくなってしまいました」。その方は、ひと目で進行乳がんとわかる状態で、大腿骨への転移も認められる。30代前半に夫を亡くし、以来10年、女手一つで大学生、高校生、中学生、3人の子を育ててきたと言う。「まさか私のがんになるなんて」。精密検査の結果を聞いた彼女は、それでも治療への希望をその瞳に宿していた。手術と抗がん剤治療を受けて3ヵ月後、仕事に復帰する。

初診から1年半後、肝臓に転移が見つかる。「どうして、こんなにひどい目に遭うのですか」、社会人になった娘さんが詰め寄る。抗がん剤治療を行い、一時は小康を得たが、約半年後、肝臓のがん

は増殖、入院を余儀なくされた。ある日、彼女は病院のベッドで「先生、家で過ごしたいのですが」と懇願し、家族と相談の上、自宅治療と訪問看護を選ぶ。看病は70代半ばの母親が担い、学校の休みには、就職間近な長男と中学三年になる次男も手伝った。「やっぱり、家はいいです」、彼女は繰り返し口にした。ある往診の帰り際、見送りに出た母親がぼろぼろと泣く。「あの子が不憫でしょうがない。こんな体に産んだ自分が全部悪いのです」

「彼女はご家族に見守られ、夫君の建てた家で旅立ちました。私も往診に訪れ、一緒に看取ることができました。枕元にはご長男の就職式の写真が置かれ、ご長女は泣きながらも死化粧を施していました。『これで俺たちだけになってもうた。父ちゃんも母ちゃんもない』。中学生のご次男が、自分の息子の顔とだぶって見え、思わずこみ上げるものがありました」

「ありがとう」が増える職員の進化

就任より約1年、笠原院長は、



社会福祉法人 恩賜財団 済生会支部

福井県済生会病院

〒918-8503
福井県福井市和田中町舟橋7番地1
TEL 0776-23-1111
FAX 0776-28-8527
<https://www.fukui-saiseikai.com/>



想いを伝える。

力を貸してください。

医療者は日々どんな想いで病と戦っているのだろうか。

医療現場は止まることなく動き続ける。

命と向き合い、患者を苦しみから救うために、情熱を注ぎこむ。

いまもむかしも変わらない光景。

その姿を多くの人に知ってもらいたい。

RECRUITING SPONSORS

協賛社
募集中

私たちは「医療情報誌 neo」の活動にご賛同いただけるスポンサーを募っています。

neo
MEDICAL INFORMATION MAGAZINE

制酸剤、緩下剤（酸化マグネシウム製剤） 薬価基準収載

250mg「ケンエー」
330mg「ケンエー」
500mg「ケンエー」



近日出荷開始予定

インクジェット印字と PTPシートを規格ごとに色分け



印字色
緑



印字色
青



印字色
ピンク



- ① 各製品の印字色を規格ごとに分け、PTPシートの色に合わせます。
- ② 印字色をより濃くします。
- ③ 印字サイズを従来品より大きくします。

4. 効能又は効果 ○下記疾患における制酸作用と症状の改善 胃・十二指腸潰瘍、胃炎（急・慢性胃炎、薬剤性胃炎を含む）、上部消化管機能異常（神経性食思不振、いわゆる胃下垂症、胃酸過多症を含む）○便秘症 ○尿路尿酸カルシウム結石の発生予防 6. 用法及び用量（制酸剤として使用する場合）酸化マグネシウムとして、通常成人1日0.5～1.0gを数回に分割経口投与する。《緩下剤として使用する場合》酸化マグネシウムとして、通常成人1日2gを食前又は食後の3回に分割経口投与するか、又は就寝前に1回投与する。《尿路尿酸カルシウム結石の発生予防に使用する場合》酸化マグネシウムとして、通常成人1日0.2～0.6gを多量の水とともに経口投与する。なお、いずれの場合も年齢、症状により適宜増減する。8. 重要な基本的注意 8.1 本剤の投与により、高マグネシウム血症があらわれることがある。特に、便秘症の患者では、腎機能が正常な場合や通常用量以下の投与であっても、重篤な転帰をたどる例が報告されているので、以下の点に留意すること。〔9.1.3、9.2、9.8、11.1.1、13.1、13.2参照〕8.1.1 必要最小限の使用にとどめること。8.1.2 長期投与又は高齢者へ投与する場合には定期的に血清マグネシウム濃度を測定するなど特に注意すること。8.1.3 嘔吐、徐脈、筋力低下、傾眠等の症状があらわれた場合には、服用を中止し、直ちに受診するよう患者に指導すること。9. 特定の背景を有する患者に関する注意 9.1 合併症・既往歴等のある患者 9.1.1 心機能障害のある患者 徐脈を起こし、症状が悪化するおそれがある。9.1.2 下痢のある患者 下痢を悪化させるおそれがある。9.1.3 高マグネシウム血症の患者 高マグネシウム血症の症状を増悪させるおそれがある。〔8.1、11.1.1、13.1、13.2参照〕9.2 腎機能障害患者 高マグネシウム血症を起こすおそれがある。〔8.1、11.1.1、13.1、13.2参照〕9.5 妊婦 妊婦又は妊娠している可能性のある女性には、治療上の有益性が危険性を上回ると判断される場合にのみ投与すること。9.6 授乳婦 治療上の有益性及び母乳栄養の有益性を考慮し、授乳の継続又は中止を検討すること。9.8 高齢者 投与量を減量するとともに定期的に血清マグネシウム濃度を測定するなど観察を十分に行い、慎重に投与すること。高マグネシウム血症を起こし、重篤な転帰をたどる例が報告されている。〔8.1、11.1.1、13.1、13.2参照〕10. 相互作用 10.2 併用注意（併用に注意すること）本剤は吸着作用、制酸作用等を有しているため、他の薬剤の吸収・排泄に影響を与えることがある。テトラサイクリン系抗生物質（テトラサイクリン、ミノサイクリン等）、ニューキノロン系抗菌剤（シプロフロキサシン、トスフロキサシン等）、ビスホスホン酸塩系骨代謝改善剤（エチドロン酸二ナトリウム、リセドロン酸ナトリウム等）、抗ウイルス剤（ラルテグラビル、エルビテグラビル・コピシスタット・エムトリシタピン・テノホビル ジソプロキシルフマル酸塩等）、セフジニル、セフトキシム プロキセチル、ミコフェノール酸モフェチル、ベシタミン、アジスロマイシン、セレコキシブ、ロスバスタチン、ラベプラゾール、ガバペンチン、ジギタリス製剤（ジゴキシン、ジギトキシン等）、鉄剤、フェキソフェナジン、ポリカルボフィルカルシウム、高カリウム血症改善イオン交換樹脂製剤（ポリスチレンスルホン酸カルシウム、ポリスチレンスルホン酸ナトリウム）、活性型ビタミンD₃製剤（アルファカルシドール、カルシトリオール等）、大量の牛乳、カルシウム製剤、リオシグアト、ロキサデュスタット、バダデュスタット、炭酸リチウム、H₂受容体拮抗薬（ファモチジン、ラニチジン、ラファチジン等）、プロトンポンプインヒビター（オメプラゾール、ランソプラゾール、エソメプラゾール等）、ミソプロストール 11. 副作用 次の副作用があらわれることがあるので、観察を十分に行い、異常が認められた場合には投与を中止するなど適切な処置を行うこと。11.1 重大な副作用 11.1.1 高マグネシウム血症（頻度不明）呼吸抑制、意識障害、不整脈、心停止に至ることがある。悪心・嘔吐、口渴、血圧低下、徐脈、皮膚潮紅、筋力低下、傾眠等の症状の発現に注意するとともに、血清マグネシウムの濃度の測定を行うこと。〔8.1、9.1.3、9.2、9.8、13.1、13.2参照〕11.2 その他の副作用 下痢等、血清マグネシウム値の上昇（頻度不明）

包装 250mg PTP包装：100錠（10錠×10）、1000錠（10錠×100）、210錠（21錠×10）、2100錠（21錠×100）、バラ包装：1000錠
330mg PTP包装：100錠（10錠×10）、1000錠（10錠×100）、210錠（21錠×10）、2100錠（21錠×100）、バラ包装：500錠
500mg PTP包装：100錠（10錠×10）、500錠（10錠×50）、210錠（21錠×10）、2100錠（21錠×100）、バラ包装：500錠

※その他の注意事項等情報については、電子添文をご参照ください。

【文献請求先及び問い合わせ先】06-6231-5822 学術情報部まで

作成年月2023年11月

健栄製薬株式会社
大阪市中央区伏見町2丁目5番8号

